

作成日：1998年8月19日

改定日：2021年1月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : 塩化銀沈殿凝集防止剤
パーツNo. : E250223-A
会社名 : 株式会社HIRANUMA
住 所 : 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1739
担当部門 : 品質保証部
電話番号 : (0120)47-6411 FAX番号 : (029)240-0381

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外

自然発火性固体 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分外

皮膚腐食性・刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

: 区分外

皮膚感作性 : 区分外

生殖細胞変異原性 : 区分外

発がん性 : 区分外

生殖毒性 : 区分外

特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）

: 区分外

特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）

: 区分外

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物（水溶液）

成分及び含有量 : デキストリン 5%以下

アニオン界面活性剤 1%以下

環状有機窒素系防腐剤 0.2%

化学式(化学的性質) : デキストリン $C_6H_{10}O_5$

官報公示整理番号

化審法 : 設定されていない。
安衛法 : なし。
CAS No. : デキストリン 9004-53-9

4. 応急処置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所へ移動させ、鼻をかませ、うがいをさせる。
皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染した衣服を脱ぎ、付着部または接触部を大量の水で洗い流す。
目に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗眼する。
飲み込んだ場合 : 水で口の中をよく洗浄し、大量の水または食塩水を飲ませて吐かせる。

以上の措置を講じたあと、被災者がなお異常を感じる場合には、直ちに医師の処置を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水噴霧。
特定の消化方法 : 引火することはないが、周辺火災の場合には速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には容器および周囲に散水して冷却する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものが皮膚に付着したり、吸入しないようにする。
環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
回収、中和 : 少量こぼれた場合には、ウエス等で拭き取り水で洗浄する。多量にこぼれた場合には土砂、大量のウエス等で流出を防止し、ウエスに吸い取って水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の措置

取り扱い
技術的対策 : 吸引や眼、皮膚及び衣服への接触を避ける。手に付着した場合には、取扱終了後、石鹼を使って手をよく洗う。保護手袋の使用が望ましい。ピペットで採取する場合には、吸引を避けるため安全ピペッタを使用する。

保管

- 適切な保管条件 : 密栓して冷暗所に保管する。60℃以上及び直射日光下での保管は避ける。
- 安全な容器包装材料 : ガラス、ポリエチレン、ポロプロピレンなど

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : データなし。
- 許容濃度 : データなし。
- 設備対策 : 取扱場所に近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 必要に応じて呼吸器保護具を着用すること。
 - 手の保護具 : 不浸透性保護手袋を着用すること。
 - 眼の保護具 : 適切な保護眼鏡（ゴーグル型など）を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状态、形状、色など : 淡黄色ないし黄褐色の液体。
- 臭い : 弱いアミン臭。
- pH : 約 9
- 沸点・凝固点 : 水とほぼ同じ。
- 揮発性 : なし。
- 溶解度 : 水と自由に混合。

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 常温で安定である。また長期保存により、徐々に防腐剤が分解して褐色を帯びる。（凝集防止効果は3年間冷暗所保存後でも変わらない。）
- 反応性 : 70℃以上で防腐剤成分が分解する。
- 避けるべき条件 : 日光、熱
- 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素

11. 有害性情報

主成分のデキストリンは日本薬局方収載の「承認を要しない無刺激性の製剤補助剤」であるから、有害性はないものとして記載を省略し、界面活性剤成分、防腐剤成分のみのデータを記載する。

- 急性毒性 : 界面活性剤成分 LD₅₀（ラット、経口）>16g/kg
LD₅₀（マウス、経口）>10g/kg
防腐剤成分 LD₅₀（ラット、経口）580～940mg/kg
吸入(蒸気) : データなし。

長期の暴露は呼吸器系に刺激を引き起こす場合がある。

- 皮膚腐食性・刺激性 : 界面活性剤成分については具体的なデータはないが、眼、皮膚

に対して刺激性を示す可能性がある。

防腐剤成分については、ウサギに体重1kgあたり1.9mL、3.0mL、4.7mLの防腐剤原液を塗布し、24時間後の変化を調べたところ皮膚のただれを起こしたウサギもあったが、14日後にはいずれのウサギにも病理学的な変化は認められなかった。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

：呼吸器感作性：データなし。

皮膚感作性：データなし。

生殖細胞変異原性：界面活性剤成分についてはデータなし。

防腐剤成分についてはAmesテストにおいて陰性。

発がん性：データなし。

生殖毒性：データなし。

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露
：データなし。

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露
：データなし。

吸引性呼吸器有害性：データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性：界面活性剤成分についてはデータなし。
防腐剤成分については96時間TLm (Bluegill Sun-fish) 27mg/L

残留性／分解性：界面活性剤成分についてはデータなし。
防腐剤成分については、化審法化学物質の安全性点検の結果、「分解性が良好と判断される化学物質」と公表されている。
(通産省公報昭59年、官報公示番号(5)-998)

生態蓄積性：データなし。

土壌中の移動性：データなし。

13. 廃棄上の注意

本凝集防止剤を添加して銀滴定を行なった後の廃液は、20リットルポリタンク等に貯めておき、塩化銀沈殿凝集剤 (Parts No.E250224-A) を添加して塩化銀を凝集沈降させてろ過し、塩化銀を回収した後、ろ液を中和し、多量の水で希釈して排出する。活性汚泥処理を経由することが望ましい。本凝集防止剤原液を廃棄する場合にも、pH7まで中和したのち多量の水で希釈して排出する。

汚染容器及び包装：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国内規制：適用法令なし。

国連分類：分類基準に該当しない。

特別の安全対策 : 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

化学物質管理促進法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
労働安全衛生法 : 非該当

16. その他の情報

引用文献、参考資料

- 1) 通産省基礎産業局化学品安全課監修「化審法化学物質 第3版」化学工業日報社発行(1997)
- 2) 日本薬局方解説書、広川書店発行
- 3) 日本防菌防黴学会編「防菌防黴剤事典」
- 4) Sigma-Aldrich、三愛石油(株)、関東化学(株)等のSDS

* 本安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成されていますが、必ずしもすべての情報を網羅するものではありませんので、取扱いには充分注意してください。また、記載内容は情報提供を目的としたものであり、いかなる保証をなすものではありません。

以上